

第6回 小樽市議会 市民と語る会

ご意見

○平成28年5月16日 高島会館

市長の政治姿勢はおかしいと感じる。人事についても虚偽があるように感じる。追及をしていていただきたい。
新聞報道では市長/議会の関係がうまくいっておらず、会期延長などがあると聞く。なんとかうまくやっていただけないか。
去年は、自己負担を110円に引き下げて冊数制限の案もあった。 使い方によっては半年でなくなってしまうので、120円のままで良いので、制限は定めなくてほしい。市民の意見をよく聞き、検討してしてほしい。
今年は暖気で雪が温んだことで、車両が通行困難になることが2,3度あった。住民が実費で排雪を頼んだが、市は排雪をしてくれなかった。
道道より高島小学校に向かう通学路いわゆる中央線に関して、優先的に排雪をする約束があるが、今年度は入らず何度も対策本部へ電話をした。何度も苦情を言い、ようやく一回入ってくれたが、子供たちの安全対策のためにも今後はしっかりやってほしい。
かつては高島に議員が多く、その付近はきれいに除雪されていたという声があった。そうではなく、道路によって優先順位があるための順序付けだということをきちんと説明してほしい。
高島の一部では除雪後も道路幅員が狭いため、スキーを持った子供が車に接触するなどのケースがある。ぜひ改善を願う。

○平成28年5月18日 桂岡十万坪会館

小樽市はどちらを向いてリードしていこうとしているのか。小樽は観光都市宣言をしているが、今の状況では底が薄くてリピーターは望めない。シンガポールなどは国全体を挙げて観光に力をいれているが、あれくらい腹を据えて取り組まなければ、観光都市というには、今の状況ではおこがましい。何をどうすれば観光都市になるのか、もっと熟慮する必要があるのではないか。若竹の貯木場の水面利用という話があったが、私はクルージングで行った奄美大島ではクルーザーが来たらマングローブのカヌー体験を行っているが、小樽も海水面と運河をうまく利用すればそういったことも可能なのか、もっといろんなことを考えたほうもよい。
商店だけが並ぶような観光都市ではなく、本当に人が楽しめるように目指していかなければ、観光都市なんて表題を言わないほうがよい。
昨日か一昨日でしたか、テレビの報道で見ましたが、議員が森井さんにどんな質問をして、森井市長はどういう態度だったのかということ具体的に、我々が判断できるような、良い、悪いも色々含めて、主観的なものもあろうかと思いますが、我々がきちんと何の質問をしたのか、後援会通信、記者会見録でどんな質問をして、森井市長はどういう態度だったのか、もう、けんもほろろ、意味不明のことを言う、質問の仕方が通じていなかったのかというような解釈

するのか、その辺の判断材料を提供してくれればありがたいと思うのだが。
昨日、札幌手稲の人から、ドリームビーチは、札幌の人がかなり利用している。でもあそこは設備が悪い。例えばマナーの問題なのかもしれませんが、清掃が行きととらず汚いんですよ。あれだけの夕日が沈み、景観があるのにどうして小樽の人はそういうことに目を向けないのだろう。整備してもっと良い観光の材料になるのかと言われました。やらないのなら札幌でやった方がもっと綺麗になって観光客も呼べるよという意見もされていました。 確かに町の中には、今、大きな豪華客船が入るとか、観光客の来るのもいいんですけど、もっと視点を違ったところにおいて、本当に北海道の美しさとか、いいもの、それも小樽の象徴だというものを是非紹介していただくよう政策をとっていただきたいと思いました。

質 疑

○平成28年5月16日 高島会館

質 問	答 え
市長は開かれた市政というが、そうは感じない。2年前に自治基本条例が制定されたが、市民個人が各部局、各課に行き、話をすることが行政評価の市民参加への一助になると思うがどうですか。	(総務常任委員長) ご指摘のとおり、評価事業についても根底には市民参加を自治基本条例でも謳っている。 おっしゃる通りなので、我々もその点は行政にきちんと考えを申していきます。
知人を市内案内した際、石蔵の多さに驚いていた。また、野鳥の種類も豊富であるとのこと。 古い高島村の時代のことも、観光資源になりうるのではないですか。	(経済常任委員長) 野鳥は全国的に環境アセスメントで守ろうという動きもあるうえ、小樽の魅力として認識し、取り組んでいく。 石蔵も、現在歴史的建造物ではないが、今後の指定についても考えていきたい。
ふれあいパスは所得に限らず、一律となっているが、利用状況はどのようなのでしょうか。 所得制限を設けることはできないのでしょうか。厳しい財政状況の中、長続きする事業になるのではないのでしょうか。	(厚生常任委員長) そのような(所得制限)意見もあるが、制限に反対の声もある。まずはアンケートの結果も見たいと考えております。
認知症総合事業とは具体的にどういうものですか。	(厚生常任委員長) 認知症初期集中支援チーム(市内4人の医師)と認知症地域支援員(保健師、看護師、介護福祉士、社会福祉士)や、主治医も連携して認知症サポートにあたるという事業です。

	(副議長) 国としても、財政負担を削減する意味合いからも、認知症サポートを施設から在宅に切り替えていく方針からのものです。
高島３丁目に住んでいるが、毎年入る排雪が今年はなかった。何度も入っている地域があると聞きますが、どうなっているのですか。	(建設常任委員長) 費用抑制のため、排雪に入らなかった道もあると聞いています。議会でも質問があったが、市長、除雪対策本部としては現地確認をし、必要性を都度判断したとの答弁でありました。高島の道については改めて場所など伺いたいです。
少雪であったが、除雪費は今年度どのくらいかかったのですか。	(建設常任委員長) まだ確定したものでないですが、予算の執行率は８～９割ほどであったと聞いてます。 ただし、これは穏やかな気象を想定しての予算に対しての執行率です。 ２５年度、２６年度は多雪であったため５～６億の補正をした。２７年度は補正をしない中で、３月中旬時点では３割ほど残していました。 シーズン終盤にまた降雪があったため、その後の執行はあったかと思います。排雪は除雪と比べ、何十倍も費用がかかるので、市側もなるべく排雪を抑制したいという考えがあったと思います。 いずれにせよ、予算が残ったことは事実です。
この会館の近くの暗渠は、春にはかなりの量の雪解け水が流れてきます。小学校低学年の子供たちにとっては、遊び場のようにもなっており危険です。市でも動いてくれたが、地権者が近くにいないので遅々として進まず、個人として杭を打った。事故が起きないように改めて市にも注視してもらいたい。	(建設常任委員長) 市とも話をし、現地視察行いたい。
高島も高齢化に伴い、山の方では空き家が増えています。市の方ではどう対策をするのですか。	(建設常任委員長) まさにそれをこれから検討するための会議を設置します。民間のＮＰＯなどは古い建物に着目し、市民より市外の人がそれに魅力を感じ

	ており、マッチングを行っています。市も再活用に向けて動いています。
空き家を市が借り上げて市営住宅にすることも考えられます。また、空き家を移住者のための住居にする取り組みも知人が行っているため、市も賛同をしてほしい。	(建設常任委員長) 市内中心部に関しては空いているマンション等の一部を借り上げて、市営住宅にする考えもあり、子育て世代などの支援を必要とする人たちの助けになりうる計画である。
札幌に月1、2回、JRで行きますが、中国など外国からいらっしゃった方が、朝里から銭函の海岸線を見て、みんな喜んでいます。市でもうちちょっとみんなに広めるとか、観光の何か目玉の一つとして加えていただけたらうれしいなと思います。	(経済常任委員長) 朝里から銭函の海岸線は、私たちは見慣れて感動しないですけど、外国の方は感動されています。 海岸線開発されていないけれど、観光スポットになりうる場所がいっぱいあります。 例えば義経トンネル、アオバトなどもあり、良いと思います。
最近全道的に、バスの事故等交通事故も含めて多いです、最近、介護タクシーなど、体の不自由な方をご自宅まで送り届けるっていうサービスがここ数年増えてきました。5年前までは13施設くらいあったのが、今、50数か所あります。私が何を言いたいかというと、そこで彼らが仕事をしていて、市民の命を守れるかということと、タクシーの運転手さんの仕事を少し奪っている気がしないでもないです。車両を、5台以上運行している会社は、車両運行責任者をおかなければならない、という規則があるんですけど、きちっとそれが守られているのか、という懸念があるのです。私自身が調べる術もないので、きちっとぜひ議会においてもこの点をお調べいただいて、是は是、非は非としてほしい。善良な方もおりますし、善良じゃない方もおりますので、ぜひそのところを見極めて、いただきたいと思います。	(厚生常任委員長) 今のお話しですけれども、本当に大事なお話しだと思いますので、これしっかりと調べていきたいと思っています。
小樽の観光は、通行型で、何とか滞在型に持っていくということは、市として何か考えているのですか。通行型だったら、単純にその近辺で終わり、滞在型は全体がこう盛り上がると思います。それが空き家対策にもつながってくる	(経済常任委員長) 滞在型、通年型これは小樽の課題です。一つにはすぐ近くに札幌圏、道央圏がありまして、札幌の夜の魅力、どうしてもそっちに引っ張られがちです。ただ、札幌にはない夜の魅力とい

と思うんです。僕ら不動産関係やっている仲間の連中がそういうことを一生懸命考えてくれていますので、そういう相談事ができるのであれば、耳を傾けてほしいと思います。	うのも小樽にはあるので、それをさらに魅力を引き出すことは考えられています。ただ、まだ解決には至っていません。 札幌からまた小樽にきてもらおうと、場合によっては小樽に泊まってもらおうということも札幌圏、道央圏と話ということも必要かなと思います。課題、問題もたくさんあります。皆さんの意見をお聞きしていきたいと思います。
市役所に勤めている3分の1くらいの人が、札幌からきていると聞いていますが、まず空き家対策という意味で、そういうところに住んでもらう、そういうことはできないでしょうか。	(議長) 市外からは7%くらいです。 やっぱり市役所の中心にいる方々からそういうことをしてもらわなければならないと思うのです。 これは伝えておきます。
空き家対策の件ですが、冬に雪が積もるだけ積もって、暖気が来ると、屋根の雪が一斉に落ちだします。そこで市に高齢者の住んでいるあたりが心配だと電話すると、おそらく市の担当もあちこちから電話がきていると思います。正直パニック状態で、行きたくても行けない状況であるようです。やってもらえるのは、雪おちてあぶないから、という看板の設置だけです。天気の変や落雪が発生するような時に、臨機応変に職員を増員していただければ、少しは安全上の配慮ができるのではないかと思います。	(建設常任委員長) 今の状況というのは、雪が落ちると、建設部又は消防署が行くなど縦割です。 行政の側が、やはり横の連携をしっかりと組んでいただいて、しっかり対応できるように、こういうご意見があったことをしっかり伝えておきます。

○平成28年5月18日 桂岡十万坪会館

道内唯一管理人のいる山小屋で、相当人数登山しているのに春香山には駐車場がない。山小屋は札幌南区が登山口は小樽だ。そういった意味で、もっと力を入れてほしい。	(経済常任委員長) 可能な限り調査検討していきます。
「小樽は港」という観念が強すぎるのではないか、小樽には南の国からきている人が多い	(経済常任委員長) 私もスリランカからのお客様を天狗山にご案

いが、もう少し何を求めて小樽に観光にきているのか考えてほしい、 たとえば台湾の方はサクランボやリンゴを見たことがない。果物は余市という思い込みがある、桃内にも果物がたくさんある。 港にはたくさんの公園があるが、ツツジだけではなくサクランボやリンゴの木を植えたかどうかと思います。 また今、北海道は観光客が増えて、札幌のホテルはパンク状態であるため、マンションとかがホテルに参入しようとしているが、小樽は今こそそういったお客を引っ張るチャンスではないかと思いますし、隣町である銭函もチャンスがある地域であると思います。銭函の海水浴場の開発は進んでいないが、ハード面での開発をすればお客を取り込むチャンスではないかと思います。それと小樽運河周辺はきれいだが、そこをずれると汚くて、お客様が目や口や抑えて歩いている姿を見るのは辛いものがあります。 それと小樽の木であるツツジも縛られたまま咲いているが、縄を解いて小樽の象徴である花を見せてあげてほしいです。	内した時、雪を見て大はしゃぎされたことがあります。そういった意味で南にないものとして雪明りはチャンスかなと思います。 またホテルが満杯状態で、雪まつりの時に小樽に回ってきたという情報も入っています。 今、国の施策として、海外からの観光客を2000万人から6000万人に増やし、それを地方に振り向けようとしています、小樽でも観光客が増えると思いますが、ホテルの建設が間に合わなくて、その受け皿として、民家や商店の2階を民泊施設としていこうというアイデアも出てきています。 また港が汚いという事で、議員の中では、「まちをきれいにし隊」に参加していますが、まだまだ部分的に汚いところもありますが、それも踏まえてより良い観光都市になるよう努力していきます。 ツツジについては公園課に伝えます。
踏切について JR に申し入れしてほしい件がある。 札幌発ほしみ駅止まりの列車が乗客を降ろした後、銭函駅まで入ってくるため、銭函西踏切の遮断機が列車が通過しないのに下りて、待たされ非常に不愉快である。 今の日本の技術からするならば、下りないようにできるはずである。 是非、JR に申し入れしてほしい。	(総務常任委員会) 今の提言については、改善してもらうよう JR に申し入れします。
市民と語る会は大変に良いことである。 皆さんとこのように意見交換できる場が少ないので、これからも引き続き行って欲しい。 銭函駅のバリアフリーとエレベーターの設置について聞きたい。 ここにエレベーターが付くという事は足腰	(厚生常任委員長) バリアフリー化という事で、多目的トイレと駅入口をスロープにすることについては4月に OK があり、エレベーターについては検討委員会が立ち上がる方向だそうですが、新聞報道にあったように、本年度中に着工できる見通し

の弱い人が単に利用しやすいというだけでなく、銭函の活性化に大きく寄与することになる。 銭函や桂岡の悲願であるが、今どこまで、進んでいるのか教えてほしい。	である。 行政としては、はっきり国が OK を出さなければ言えませんが、本年度中には、着工の見通しである。
ドリームビーチの問題ですが、去年は開設されませんでした、今年は北海道の方も、市の建築許可が出れば OK になるという雰囲気ですが、市としてドリームビーチの海水浴場の予算付けはされるのでしょうか。	(経済常任委員長) 環境整備という事で当初予算でされていますが、ドリームビーチについての金額は今不明なので後でお知らせします
学校の適正配置ののですが、いよいよ銭函地域になると思いますが、いつから計画が出されるのか心配です。 予想として、張碓小学校と桂岡小学校が銭函小学校に一括統合されるという噂が流れていますが、桂岡小学校が廃校になった場合、プールはどうなるのか心配です。 また張碓小学校に子供を通わせたいと、春香ニュータウンに住んでいる人が一杯いると聞いているので、学校無くして大丈夫かなと思います。	(学校適正配置特別委員会委員長) 学校適正配置の件ですが学校適正配置計画は平成22年から36年まで行い、前期8年、後期7年とし、銭函地域は平成30年から行う予定です。 中学校は銭函中学校しかないのもそのままですが、小学校についてはこれから検討しますが、そのたたき台として銭函小学校に張碓と桂岡を統合してはどうかというプランが出ています。 これから地域に、保護者の方にお話しして最終的にどうするのか決めますが、桂岡のプールにつきましてはその中でどうするのか、張碓に行かせたいが為に引っ越してきた方をどうするのかいろいろ意見が出てくると思いますが、その前に聞き取りがあると思いますので、その時に臣意見を出していただきたいと思います
小樽は保育所の待機者がどのくらいいて、待機児童の問題が解決したのか教えてください	(厚生常任委員長) 待機児童の問題は全国的な問題です 小樽市では本年3月には74人でしたが、その中で特に多かったのが0歳児で56人ほどでした。 年度が替わって少なくなったとはいえ、相変わらず0歳児は12人おり、全体の比率の中でも高く、待機児童をなくしてほしいといういろいろな問題提起していますが、一番の問題は賃金が高いという事で、また需要と供給のバランスで、保育所なくしてきたことも、原因の一つです、

	抜本的な改善になっていません。 皆様の意見を議会に反映させて、待機児童の解消を図っていきたいと思っています。
防災無線についてですが、銭函2丁目、3丁目は低地なので要求しているが、お金が無いの1点張りだが、お金と命のどちらが先か心配です。このことは蘭島の人も心配していました。また学校が統廃合されたら避難する場所がないと言っていましたし、小樽市役所も耐震が心配です。	(総務常任委員長) 現在小樽市では防災ラジオを各町内会に配布していますが、防災無線については地元の議員も議会の議論の中で要望していますが、市の財政が潤沢でないので要望に応えられないのが現状です。 農協では各家庭に定時の連絡をしていることもあるので、どういことができるのか研究し、市と交渉していきます。 また市庁舎の耐震の問題ですが、ようやく建て替えの基金を積み立て始めたところです。
最近、市長と議会の中でじっくりいっていない噂をたくさん聞いている。そのへんどう考えているのですか。 これは、続くのでしょうかね。	(議長) 前回、朝里で開催した「市民と語る会」でも質問がありました。「市長と仲良くしていないのですか。」と言われました。私が答えたのは「仲良くしていないのではなくて、仲良くできていない。」と答えました。市長と議員はどちらも選挙で選ばれています。いわゆる二代表制で、どちらも、上位でも下位でもない。市長部局は、執行機関として事務を行う。議会はそれをチェックして、それはいいですよ、悪いですよという仕組みです。議会の中で、議員は、市長や職員に質問をする権利があり、市長は答える義務があります。ですから、我々議員が聞いたことには、真剣に真摯にお答えいただきたいのですが、随所随所で答弁をいただけないことがあるので、それは少し違うのではないですかということになり、そういうことが何回かありまして、会期延長したりしています。車の両輪と言われていますものですから、小樽の市政のことをきちんとしてほしいのですけれども、我々も悪いのかもしれませんが、中々上手くいっていないですね。 結局、この対決がずっと続いていくと、本格的な政策議論ができない。入る前に信頼関係が

	大事、お互いにですね信頼関係がない中で議論すると後で、それ違うよとか、間違っているよとか、そんな話にはならないと思います。まずは、信頼関係しっかり築かなければならない、このままで絶対いいとは思っていませんので、我々も市長部局に言わなければならない、市長部局も私たちに言わなければいけない。それもしっかり精査しながら、小樽市政がうまく進むように頑張っていこうと思います。
私は今回市長選では、森井さんを押ししました。それは何故かという、今までの代々の市長さんは役所から出られた方、もしくは役所の下請けというか商工会議所から出た方が市長をやり、その中にあって小樽市はどんどんさびれてきました。そうであるなら、変えてもらわなければならない。変革を期待して、今回森井さんに私は入れました。その森井さんが議会となかなかしっくりいかない、そうして、森井さんは森井さんでやりたいようなことは、一つの目標があるのだと思うのですよ。その目標に対してなんとか変えていく方向に、議会のみなさんが協力もしくは、市役所の方々がバックアップするという体制に何故できないのか教えてほしい。	(総務常任委員会委員長) 何故議会が、職員が協力できないのかという質問でよろしいですか。今、議長も言いましたが、いくら我々が質問しても答えてくれない。答えていただいた部分でも錯誤と言って答えをあやふやにする。それで、信頼関係はできないと思います。謝るというのはどういう言葉を使うのでしょうか。本当なら、ごめんなさいでもいいですし、すいませんでもいいですが、森井市長からいっさいそういう謝罪の言葉とか聞いたことはありません。それで、みなさん方に考えていただきたいのは、信頼関係とかいう言葉は本当に何でしょうかと逆に聞きたい部分があります。
以前からふるさと納税という名前ではなくて、これに似たような形のもので、同じ寄付の制度がありました。その違いがなんなのかということをよく理解されていない、はっきりと明らかにされていない。ふるさと納税するなら、各市町村みますと、先にふるさと納税していただきますと、こういう特権ありますという、明らかにして出しています。どういったメリットがあるのか、先にはっきり出したらいかがでしょうかね。私も今、市の方に寄附をしています。どっちに選択したらいいか、何かははっきりよく分からない。やるなら、ふるさと納税、全国的に知名度あるからということ、その名前そのまま使う、もう	(総務常任委員会委員長) 寄付について、今までは、交通記念館の入館料、名誉市民みたいな形の市民の寄付していただいた方に提供していましたが、小樽市の地場産のお墨付き表記を、これを活用して付けたということが今年のはじまりです。この部分で市の取り掛かりが遅かったと思います。これから、是非小樽を盛り上げていただきたいと思います。

ちょっとはつきり分かるようにしたら、ふらさと納税が増えると思う。	
今お聞きしましたら、なにか中心部の所にはずいぶん力を注いでいるように見えますけど、銭函、張碓地区というのは、もう少し掘り起こしていただければ、とってもいい地域ですよ。銭函に住んでいて同じ小樽市民なのに、冷遇されているのかなと。 もう少し銭函地区に目を向けていただきたいと思います。とってもいいところなのです。絶景がたくさんある、海も山も本当に素晴らしい自然がいっぱいなので、少し目を向けていただけたら案外観光に結び付くのではないかと思います。	(経済常任委員会委員長) おっしゃる通り小樽にはまだまだ全市的に色んな魅力的な、磨きをかければスポットになるところはあるわけです。昨日、市民の方から、朝里から銭函にかけた海面、外国から来た人それを見て大変喜んでいてというような意見もありました。歴史的なものの中に、明治の時代に作られまして、義経、しずか、弁慶が通った素掘りのトンネルだとか陸橋とかレンガを積み上げた明治時代に作られたがそのまま残っていますね。これは、観光スポットとかに大いになります。価値のある物もたくさんあります。そういうものをさらに、埋もれたものにも観光スポットになり得るものがありますので、小樽の財産ですので、光を当てていきたいと思っています。